

研修会報告

令和元年 6 月 19 日

文責：仙台厚生病院 諸橋 彰

研修会テーマ：平成30年度病理組織検査精度管理フォローアップ研修会

開催日時：令和元年 6 月 15 日（土）14：00～17：10

会場：東北医科薬科大学病院 大会議室

司会：東北医科薬科大学病院 佐藤 正樹 技師

講演 1：「平成 30 年度病理組織検査精度管理調査 報告・検討」

座長：東北医科薬科大学病院 病理部 佐藤 正樹 技師

講師：仙台厚生病院 臨床検査センター 病理診断科 諸橋 彰 技師

東北大学病院 病理部 小泉 照樹 技師

講演 2：「自動免疫染色装置各メーカー担当者からの解説」

座長：仙台厚生病院 臨床検査センター 病理診断科 諸橋 彰 技師

講師：株式会社ニチレイバイオサイエンス 学術担当者

ライカマイクロシステムズ株式会社 学術担当者

ロシュ・ダイアグノスティック株式会社 学術担当者

講演 3：「平成 30 年精度管理調査 総評」「副腎病変の病理診断 :Update2019」

座長：東北医科薬科大学病院 病理部 佐藤 正樹 技師

講師：東北医科薬科大学医学部 病理学教室 教授 中村 保宏 先生

生涯教育点数 基礎 20 点

参加者 会員参加者 31 名、講師 3 名（メーカー除く）、実務委員 3 名 計 38 名

内容

開催当日は大雨で参加者の足が遠のくことが心配されたが、ほぼ予想通りの参加者数に受講していただくことが出来た。

【講演 1】

諸橋技師より平成 30 年度病理組織検査精度管理調査の詳細な報告と評価時に問題となった「平滑筋層と弾性繊維の染色性について」検討の報告が行われた。また、検討をもとに比較的評価低かった施設に再染色を依頼した結果と原因の考察が行われた。再染色施設 A では精度管理時、使用期限が切れてしまった自動染色装置とは違うメーカーの一次抗体を、自動免疫染色装置と同一メーカーとし、プロトコルもメーカー推奨とした。その結果、染色性は改善された。再染色施設 B では精度管理時とは違う一次抗体を購入した。精度管理

時使用した抗体は手染め染色用で自動染色装置用ではなかった。その結果、染色性は改善された。最後に免疫染色を良好に行うポイントが解説された。

次に小泉技師より「免疫組織化学染色(desmin)の検討と考察」というテーマで、各社一次抗体のメーカーと自動染色装置を組み合わせた desmin と D2-40 の染色性の検討結果が報告された。Desmin のクローンは主に二種類あり、同じクローンでも検出系を含めた最適な賦活方法が違うといった事や電頭による粘膜筋板と筋層の構造の違いによる染色性の考察などが行われた。

【講演 2】

自動免疫染色装置を取り扱うメーカーの学術担当者より、免疫染色についての基礎的な知識の解説をしていただいた。株式会社ニチレイバイオサイエンスからは「ポリクロナール抗体とモノクロナール抗体の違い」、ライカマイクロシステムズ株式会社からは「抗原賦活の種類と作用機序」、ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社からは「免疫染色の原理」というテーマについて講演をしていただいた。各社の講演後には、日頃の免疫染色の疑問や業務などについてのアドバイスなどのディスカッションが行われた。

【講演 3】

監修医より病理医からみたdesmin染色の重要性などを含めた平成30年度の精度管理の総評が行われた。病理医の立場から技師とは異なる標本評価の観点は非常に重要であり説得力がある内容であった。次に先生のご専門である副腎病変についての講演をしていただいた。副腎腫瘍については近年、WHO分類の変更点など技師にも分かり易くご講演頂いた。